

デンタルフロスの使用で差がつく「予防歯科」 フロスを習慣にする第一歩 ガムチャックス



ラウナ南大井デンタルクリニック

Launa Minamioi
Dental Clinic

ラウナ南大井デンタルクリニック
(東京都品川区)

歯科医師 田中 千久紗



現在、フロスは従来のロールタイプからフレーバー付きのものまで、様々な種類の商品が販売されています。ロールタイプのフロスは大白歯のフロッシングが難しく、またホルダー付きのフロスは大白歯まで届きやすくても、ただフロスを隣接部に通すだけでは隅角部にプラークが残存します。

その中で「ガムチャックス」はロールタイプのフロスとホルダー付きのフロスのいいところを取ったフロスと言えるのではないのでしょうか。とくにフロス初心者の方へお薦めします。

ある調査データで『歯科医院で受診した診療科目』について調査した結果、欧米は「歯の健康状態の診断」がアメリカ：64.5%、スウェーデン：70.4%であったのにたいして、日本は「ムシ歯治療」が66.6%と最も多く、残念ながら「予防歯科」はまだまだ浸透していないことが分かります。

当院はコンセプトとして、「生涯の豊かな生活のサポートをする」を掲げ、予防歯科の啓蒙を日々の診療で行なっています。

そのため、カウンセリングに力を入れています。カウンセリングでは歯の構造や歯周病、う蝕についてなどアニメーションなどを用いて説明を行い、まずは来院者様にご自身の歯に興味を持っていただくことから始めています。また、歯ブラシなどの使用中のデンタルグッズについてお聞きしますが、こだわりを持ち選んで使用している方・使用しているデンタルグッズの商品名を答えられる方は残念ながらほとんどいません。また1日2回歯磨きをされるとお答えされる方は多いですが、歯間ブラシやフロスの使用率は2割程度です。その理由の大半は「やり方が分からない」・「物が挟まった時だけ使う」というものでした。

歯ブラシ単独の場合とフロスを併用した場合のプラーク除去率は、歯ブラシ単独が約58%に対してフロス併用の場合、約86%とおよそ30%プラーク除去率を上げると説明するとほぼ100%の来院者様は驚かれます。口腔内のpHは6.8～7.2の中性にありますが、とくに乳歯や萌出したての永久歯の場合、pH6.2でう蝕になりやすい環境と言われていますので、3ヶ月前の検診でなかった

はずのう蝕が…！ということはめずらしくありません。また、う蝕は隣接面からの進行がほとんどで、そのほとんどはフロスを使用していないのが原因です。

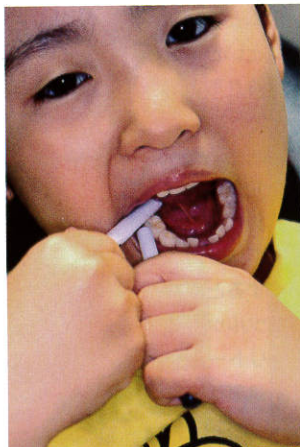
当院では1日1回フロスをしっかり通すようにと指導していますが、フロッシングに慣れていない方の場合、ロールタイプだととくに大白歯のフロッシングが難しく、お子様の仕上げ磨きの際、歯肉にフロスを押し当ててしまったりと、逆にフロスを嫌がる原因となってしまう。

「ガムチャックス」はヌンチャクのような2本のハンドルがついていますので、前歯はもちろん、指では届きにくい大白歯も簡単にフロッシングを行うことができます。実際フロスができなかった子どもが、「ガムチャックス」を自分で持って楽しんでフロスをしてくれます。カチッとリフィルを取り外せるところも、おもちゃ感覚で楽しいようです。

フロスを習慣にする第一歩として「ガムチャックス」を私は自信を持ってお薦めします。



ガムチャックス大好き！



指では届きにくい大白歯でも簡単



ハンドル操作なので、子供でも出来る



後ろをカチッと押すと、リフィルが飛び出しおもちゃ感覚で楽しい！